

【国見学園アクティブプラン】

平成30年度「自ら学び、心豊かでたくましく、郷土を愛する国見の子の育成」3つの柱・9項目 評価シート

【くにみ幼稚園】

	確かな学力をはぐくむ			心身の健康をはぐくむ			郷土愛をはぐくむ		
	家庭学習の習慣化を図る	保・幼・小・中の学びをつなぐ	国際理解教育の充実	読書の習慣化を図る	「早寝・早起き・朝ご飯」運動「あいさつ運動」	体力の向上 食育の充実	「ふるさと国見」を学ぶ	子どもと地域の人々とのつながりを深める	子ども同士のつながりを深める
めざす子どもの姿等 達成規準 達成基準 ※発達段階に即した実現可能なめあて	テレビやゲームの時間を決めて、家庭生活を過ごすことができる。	遊びを中心に様々な体験を通して総合的に学ぶことができる。	英語に親しみ、簡単な英語でコミュニケーションをとることに慣れる。	読み聞かせや絵本が好きになり、家読の日に家族で実行することができる。	登園時のあいさつを交わすことができる。	体を動かす事が好きになり、自分から進んで体力づくりに取り組むことができる。 好き嫌いなく食べることができる。	ふるさとでの自然や行事に触れながら遊んだり体験したりすることができる。	地域の人々とながら活動することができる。	小・中学生とふれあいがらいっしょに遊んだり活動したりすることができる。
	・テレビやゲームをする時間や約束事を決めて使っている。	・友だちとよりよくかかわりながら遊ぶことができる。	・英語で簡単なあいさつをしたり、英語の歌やダンスにふれたりする。	・家読の日に1回につき10分以上、親子（家族）で読み聞かせをしたり、絵本を見たりする。	・毎朝、先生に「おはようございます」のあいさつが自分からできる。	・外遊びを中心に毎日30～60分間運動する。	・身の回りの自然や地域の行事に関心をもつ。	・地域の方に教えてもらう。また、一緒に活動する。大人の人の話を聞いたり話しかけたりする。	・先輩の小・中学生といっしょに、グループで、縦割り班で、楽しく活動する。
◇具体的な実践手立て ※いつ、どこで、だれが何をするか明確に	□テレビやゲーム ・テレビ、ゲーム（スマホ）の使い方や家庭のルールについて話し合いを守る。 家庭（親）	□遊び ・他とよりよくかかわり遊ぶための援助 ・言葉によるコミュニケーション ・環境の構成の工夫 ・アクティブラーニングの基礎 担任、副担任 □研修 ・毎水曜～週案打合せ 担任、副担任 □保幼連絡協議会 ・5月、2月 □町研授業研究会 ・2学期 小中公開授業 担任、副担任 □保育参観（PTA） ・4月、7月、2月 □学校訪問 ・6月下旬	□英語活動 ・年長 月1～3回 ・年中 月1～2回 ・年少 12月～月1回 特別講師、ALT、担任、副担任 □英語活動研修会 6月、1月 □カリキュラムの作成 ・年間指導計画 ・英語活動時間案	□読み聞かせ ・毎日～担任、副担任 ・細だより～本の紹介 ・地域ボランティアによる読み聞かせ ・子ども司書による読み聞かせ（預り） □本、絵本の貸し出し ・4のつく日 ・一人一冊 □読書活動の工夫 担任、副担任 □家読の日 ・4,5,6のつく日 ・1回につき10分以上 ・アクションカードの提出（毎月、目標60%） 親、家族	□あいさつ ・登園時「おはようございます」 ・降園時「さようなら」 ・園生活「こんにちは」「ありがとうございます」「よろしくお願ひします」 全職員、親（家庭）、地域の人々	□外遊び ・固定遊具、室内砂場、築山、園庭、水遊び、簡易プール、雪遊び 担任、副担任 □体力づくり ・体力測定（5月11月） ・運動教室（年間6回） □日常の体力向上プログラムの実践 担任、副担任、大学との連携 □食育教室 ・年長 年間7回 ・年中 年間6回 ・年少 年間3回 町栄養士、食生活改善推進員、担任、副担任	□園外活動 ・春の遠足（年中・年長） ・秋のどんぐりひろい ・虫採り ・花摘み 担任、副担任、交通安全協会、母の会 □義経まつり 9月 ・ステージ発表（年長） □秋祭り 10月 ・祭り太鼓の体験（若連） ・お祭りごっこ □産業祭 11月 ・ステージ発表（年中） 担任、副担任、親、地域の人々	□地域人材の活用 ・交通教室 ・鑑賞教室（人形劇） ・読み聞かせ ・レクおばさん（誕生会） ・ひなまつり演奏会（和楽器） ・えんぴつ入門教室 地域ボランティア 担任、副担任	□幼・小の交流会 ・運動会種目参加（年長） ・校内発表会見学（年長） ・小学校体験入学（年長） □幼・中の交流 ・中2職場体験 ・中2家庭科保育実習（年中、年長） □幼・小・中一貫教育推進事業くにみっ子まつり（年長） 担任、副担任
◇取組の実際 ○子どもの変容	4 3 ② 1 ○家庭でゲームやスマホで遊んでいるという話を子どもからもよく聞く。	4 ③ 2 1 ○友だちとのかかわりや先生との信頼関係をもとにして、元気でのびのびと遊ぶことができた。 ○子ども同士の関わりの中、言葉でうまく伝えられずトラブルになってしまう場合が多い。 ○一つの遊びから、それを発展させて遊ぶことが難しい。 ○先生方は保幼小中の学びをつなぐために、前向きによく努力している。	4 ③ 2 1 ○特別講師やALTへの親しみがわいてきて、英語が楽しいという声が増えてきた。また、年少児の英語活動の回数が増やしても大丈夫である。 ○特別講師と担任（副短）の事前・事後の打合せにより、活動の内容や役割分担を見直し、実態に合った指導案作成につながっている。	④ 3 2 1 ○幼稚園での毎日の読み聞かせや定期的な本の貸し出しにより、絵本が好きになった子どもが多い。 ○約60%の家庭で家読アクションプランを実行している。	4 ③ 2 1 ○登園時、もじもじしたり、恥ずかしがったり、親から促されたりしていた子どもも、進んで朝のあいさつする姿が多く見られるようになってきた。しかし、日常生活できちんとあいさつできる子どもとできない子の差がある。	4 ③ 2 1 ○ほとんど毎日20～40分程度外遊び（運動）をすることができた。 ○体力測定の記録が5月より11月の方が伸びた。また、全体の平均値は全国平均をわずかに上回っている。（11月）	4 ③ 2 1 ○どんぐり、落ち葉ひろい、バッタ、虫とりなど自然や生き物に興味を持ち積極的に関わる姿が見られた。 ○保護者の協力を得て、義経まつりなどふるさとの特色ある行事に参加することができた。	4 ③ 2 1 ○地域の方が幼稚園に来ることを喜んでいる。地域の方に教えてもらった一緒に活動したりすることで、地域の人々とのつながりを感じることもできた。	4 ③ 2 1 ○小・中学生との関わりが増え、親しみと期待感を持って参加したり交流したりすることができた。特に縦割り班でのダンスの体験は大変よかった。
次年度（平31）に向けて	○ 日ごろの保育の充実とともに、園内研修や町研主催事業への主体的な取組により、教師一人一人の指導力の向上に努める。 ○ 外国語活動（穎悟活動）カリキュラムをもとにした実践を推進していく。			○ 読書（家読）の習慣化を定着させるために、保育所・小学校との連携をより一層深める。 ○ 食育の一環として栽培活動を導入する。（例）さつまいもの栽培 ○ 地域の協力体制を整えながら秋の徒歩遠足を実施する。（例）よつね遠足			○ 地域学校協働本部との連携を図りながら子どもたちの笑顔のために、地域ボランティアの有効な活用を努める。 ○ コミュニティスクールを意識したPTAの取組や参加の仕方を工夫する。		